

鳥羽市地域公共交通会議会議録

会議の名称	平成 30 年度第 1 回鳥羽市地域公共交通会議定期航路幹事会
開催日時	平成 30 年 6 月 27 日（水）13：30～14：30
開催場所	鳥羽マリンターミナル会議室
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. あいさつ 2. 定期航路幹事会委員自己紹介 3. 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 平成 29 年度鳥羽市地域公共交通会議決算について【資料 1】 (2) 平成 30 年度鳥羽市地域公共交通会議予算（案）について【資料 2】 (3) 生活交通確保維持改善計画（案）について【資料 3】 4. 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 平成 29 年度地域公共交通確保維持改善事業の二次評価結果について【資料 4】 (2) 定期航路旅客荷物輸送実績について【資料 5】 (3) 平成 30 年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金（地域公共交通調査事業）計画推進事業について【資料 6】
会議資料	事項書・席次表・委員名簿 【資料 1】 平成 29 年度鳥羽市地域公共交通会議決算 【資料 2】 平成 30 年度鳥羽市地域公共交通会議予算（案） 【資料 3】 生活交通確保維持改善計画（案） 【資料 4】 地域公共交通確保維持改善事業の二次評価結果 【資料 5】 平成 29 年度旅客荷物区間別実績集計表 【資料 6】 平成 30 年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付決定通知書
公開・非公開の別	公
傍聴人の数	0 人
出席委員	立花会長、山崎委員、清水委員代理 岩佐氏、木下委員、池田委員、小久保委員 小寺委員、山下委員、西川委員、濱口委員、矢田委員
オブザーバー	なし
欠席委員	渥美委員
事務局	定期船課 中井、野呂、寺本
<p>1. あいさつ</p> <p>○中井事務局長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会 ・配布資料の確認 <p>○立花会長挨拶</p> <p>昨年度は地域公共交通網形成計画を策定するにあたり全体会を開催するなど、例年にないほど多く集まっていた。今年は通常の開催ペースに戻るが、策定した計画を推進していくため、皆様にご理解ご協力いただきたい。本日の会議は、中部運輸局に提出する平成 31 年度認定申請を中心にご討議いただきたい。</p> <p>2. 定期航路幹事会委員自己紹介</p> <p>出欠報告と出席者全員による自己紹介を行った。</p> <p>3. 協議事項</p> <p>(1) 平成 29 年度鳥羽市地域公共交通会議決算について</p> <p>○野呂事務局員</p> <p>資料 1 について説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・監事 山崎委員より監査報告があり、出納は適正であると認められた。 	

(2) 平成 30 年度鳥羽市地域公共交通会議予算 (案) について

○野呂事務局員

資料 2 と資料 6 について説明。網形成計画を推進していくための、計画推進事業補助金が計上された。公共交通の利用促進に関する懇談会を 3 回開催するほか、イベントと連携し企画切符を作成し、公共交通の利用増加を目指していきたい。10 月 8 日 (鳥羽の日) に計画している企画切符の内容については、報告事項のところで改めて説明する。

(3) 生活交通確保維持改善計画 (案) について

○野呂事務局員

資料 3 について説明。前年度は 73 万人の定期船利用があったが、今年度は 70 万人と減少の一途をたどっている。このような中、いかにして利用者を確保できるかということについて記載させてもらった。市内関係機関、離島住民と連携し、離島に行っていただけよう観光情報発信に取り組んでいきたい。損益見込計算としては、収支差引が▲2 億 8,100 万円となった。免税軽油の高騰や、双胴船の検査費用が高額であることなどから、マイナス幅が大きくなっている。

○立花会長

この計画に承認いただける方は挙手をお願いします。(全員の挙手あり)

4. 報告事項

(1) 平成 29 年度地域公共交通確保維持改善事業の二次評価結果について

○野呂事務局員

資料 4 について説明。今後は訪日外国人旅行者の受入環境整備を要望されているが、7~10 番乗り場の案内看板を今月リニューアルした。今まで日本語表記だけだったのを、3ヶ国語表記に変えた。これからも利用者確保のために、情報発信に取り組んでいきたい。

(2) 定期航路旅客荷物輸送実績について

○野呂事務局員

資料 5 について説明。旅客については、全体的に減少傾向だが、団体乗船料が若干伸びてきている。関西エリアの中小旅行会社にリーフレットを配布し、小グループの客をターゲットにした取り組みをしてきた効果が出たのかと思っている。特に 7、8 月は悪天候の影響で過去 3 年間と比べても、非常に利用者数が少なかった。また、減少率が非常に大きかったのは 9 月で、週末の台風接近の影響が顕著に出してしまった。桃取の冬場の乗船数は、島内の事業者の努力もあり、非常に好調であった。荷物については、イオンやアマゾン等の商品配送の影響があり、微増している傾向に変わりはない。

○濱口委員

この乗船実績には、福祉で取り扱っている「いきいきおでかけ券」利用分は反映されていますか。

○寺本事務局員

優待券以外の乗船者数は、全てカウントしている。

○中井事務局長

福祉の予算の中から入金されるという形だが、ここには反映されている。

○矢田委員

いきいきおでかけ券利用状況については、回収された券がかなりの量で届くので、利用率は高い。年配の方は、ほとんど利用されている。

○中井事務局長

離島の定期船にかかるいきいきおでかけ券利用率は、ほぼ 100%に近い。

○野呂事務局員

昨年、免許返納の関係で本土の各老人クラブをまわったが、逆にバスの方は、あまり使わないという声も聞こえてきた。

(3)平成 30 年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金（地域公共交通調査事業）計画推進事業について

○中井事務局長

資料 6 について説明。今年度の計画推進事業としては、懇談会の開催と企画切符の作成を予定している。懇談会はすでに活動しており、今年度の企画切符の中身をどうするかということと、来年度の補助事業の方向付けについて話し合っている。

今年度の企画切符については、1 つは昨年 10 月に海の博物館が市営になったため、海の博物館の竹あかり月あかりのイベント等とタイアップして、バスの企画切符を作ったらどうかという案が出ている。もう 1 つは、10 月 8 日の鳥羽の日に、市営定期船の無料乗船会をやるかと思っている。島に立ち寄るとか、マリンレジャーと競合するようなものではなく、市内や近隣市町村の方で普段あまり定期船に馴染みのない方に、船の乗り心地等を体験してもらって、その時の記念に切符を渡したいと思っている。

来年度の事業については、鳥羽高校の生徒達と連携して、高校生独自の視点でバスの観光コースを考えてもらい、できた物をバスセンターや観光案内所等に置いてらえればと思っている。

○木下委員

1 日とはいえ、かねてからの願いであった定期船の無料乗船を叶えてもらったのは、非常にありがたい。鳥羽の日に合わせてとなると、鳥羽の日の資料は 9 月頭に配布することとなるため、8 月頭には内容が全て決まっていなくて印刷ができない。もう少し内容を詳しく教えてもらいたい。

○中井事務局長

募集をかけたうえで、100 人ずつ 2 便に分けて、双胴船に乗ってもらい、周遊するというのを考えている。募集は広報の 9 月 1 日号でやる。抽選後、200 人の方に引換券を郵送で送って、それを持ってきていただき、記念乗船券と引き換えて、乗船してもらおうと思っている。

○立花会長

周遊の際に、島には寄港しますか。

○中井事務局長

寄港はしません。あくまでも体験乗船という形になる。

○木下委員

遊覧みたいな感じですか。

○中井事務局長

遊覧のようなものではあるが、マリンレジャーと競合するようなことはしない。あくまでも、応募してもらって、体験乗船していただくという形になる。民間の会社が観光業としてやっているところを侵しにいくわけにはいかない。

○木下委員

遊覧というのも素晴らしいと思うが、各航路のダイヤはそのまま、人数制限もせずに乗ってもらえれば、各離島に立ち寄って、交流してもらって、お金も落としてもらえと思う。そういうものを思い描いていたので、将来的には、そういう風に発展していってもらえればと思う。今回は初めての試みということで、観光案内所としても協力していきたいと思うが、広報での PR がメインということになりますか。

○中井事務局長

広報、ホームページ、行政放送等での周知を考えている。

○西川委員

離島には寄らないのですね。

○立花会長

論点はそこだと思う。

○中井事務局長

木下委員が言われたような、定期便を無料にするということは、現状では条例上できないことになっている。料金についての減免規程がないので、今の段階では難しい。島に渡る方の乗船料を無料にするのはかなりハードルが高く、双胴船の進水式や乗り物フェスタ等でも体験乗船会という形で、どこにも寄港せず帰ってくるという形を取っている。そのような形でいったんはやってみて、それが好評であれば、皆さんの意見を伺って、発展させていくことができる部分については取り組んでいきたい。

○立花会長

例えば、近隣の伊勢市や松阪市などの方にしてみても、ここから船が離島に出ていることは知っていても、自分が具体的に何かをしに行くということでもない限り、詳細については知らないと思うので、体験乗船会で時刻表なども見てもらったりして、一度行ってみようかという動機づけにはなるのかなと思う。そういう効果はあると思っている。

○中井事務局長

個人的には、2年3年と続けていければいいと思う。

○西川委員

利用する方が、鳥羽湾が好きで景色を見てみたい、船が好き、海風にあたりたいという目的なら、そういう方にとってはいいと思う。それが近隣の方なのか、中京関西地区の方が、近鉄をわざわざ使っても来るというところまで広がるのかは、やってみないと分からない。

○中井事務局長

懇談会では、当日の飛込みでの観光客用の席も用意してはどうかという話も出た。それだと、マリレジャーと競合してしまうので避けたい。

○池田委員

鏡浦の方など、別の航路を走ればいいのか。昔はそちらの方も走っていた。

○中井事務局長

認定されている航路があるので、それは難しい。現在は鳥羽～神島間で航路の認可を受けている。

○山下委員

どういうコースを走るのか。

○中井事務局長

乗り物フェスタの時は、この周辺のみを走っただけだった。所要時間や燃料のことなどもあるので、今、運行管理者と協議しているところ。

○山下委員

船内イベントの予定はどうか。

○中井事務局長

人員等も必要になることなので、定期船課の中だけでどこまでできるのかということが分からない部分もある。まず1年目は体験乗船のみを行い、好評であれば今後考えていきたい。

○山下委員

何かメインになるものがあるといいと思う。

○木下委員

さきほど減免ができないと言っていたのは、料金を減らすことはできないという意味ですか。

○中井事務局長

そうです。割引、無料にするという規程がない。障害者の方に対しての割引は規則にうたわれているが、一般の方の割引については定めがない。

○木下委員

外国人の方にとっては郷愁を誘うようで、離島に行きたいという方も多いが、現地に着いてからの案内とかソフトが少ないので、勧めるのがためられる部分もある。船内アナウンスは、今は録音されたものを使っているが、何年に1回か録音し直すということをしているのか。

○中井事務局長

船内放送の設備自体がカセットなので、それを刷新しようと考えている。網形成計画でも、船内放送の多言語化がうたわれているので、機械設備やアナウンス等も順次変えていきたい。

○木下委員

英語の案内があれば、非常に助かる。

○中井事務局長

予算等の都合もあるのでいつとは言えないが、順次やっていきたい。今年度は、ターミナルの乗船案内、行先案内の看板がようやく多言語化できた。

○山下委員

最近は、アナウンスもパソコンで入力できるのでは。近鉄の案内放送なんかも単語を区切って入力して、繋ぎ合わせて流している。

○中井事務局長

船内表示なども、近鉄特急で流れているような LED のものもあるが、予算の問題がある。

5. その他

○中井事務局長

みなとまつり当日の、かもめバスの運行について報告。例年、離島への荷物輸送の都合上、18 時までには車両が通行可能となっている。そのため、かもめバスも 18 時まではターミナルバス停まで入ってきていたが、15 時以降に露店が並び始める頃から客足が増えてきて、バスの運行が非常に危険な状態である。今年度は 15 時以降、かもめバスはバスセンター止まりとし、マリンターミナルバス停への運行は休止した。みなとまつりのチラシ等でもその旨は広報させてもらう。

○小久保委員

一般の車は入れるのか。

○中井事務局長

一般の車は入れる。離島への荷物運搬は、18 時まで可能。パールビルの裏手の道路から入れる。

○立花会長

バスは運行経路を変えられないので、迂回もできない。事故があってはいけないので、安全を第一にしていきたい。

6. 閉会

○立花会長

平成 30 年度第 1 回鳥羽市地域公共交通会議定期航路幹事会の議事については全て終了しました。今後開催させていただく定期航路運営審議会と定期航路幹事会について、再度出席をお願いし会議を終了させていただきます。